

## 活動報告

# 大学の初年次教育におけるPBL型地域連携デザイン課題の実践

Practicing Community Collaborative Design Assignments in Project Based Learning  
First Year Education at a University

松 浦 李 恵 Matsura Rie  
宝塚大学東京メディア芸術学部

中 村 泰 之 Nakamura Yasuyuki  
宝塚大学東京メディア芸術学部

神 林 優 Kanbayashi Yu  
宝塚大学東京メディア芸術学部

## 和文抄録

宝塚大学東京メディア芸術学部では、初年次教育科目として「表現実践」「表現思考」「表現とICT」「コンピュータデザイン基礎」の4科目を設置し、創作における基礎力を携えた、社会で活躍することのできるクリエイターを育てることを目指している。表現実践では「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の実現のため、学生がさまざまな課題に主体的に取り組み、クリエイティブ業界で活躍するための表現に対する姿勢を養う。本学では美術系大学である特色を踏まえながら、初年次教育にデザイン制作系の課題を取り入れてきた。さらに、本学は新宿区健康部と事業協定を結んでいることから、初年次教育の課題に地域連携を取り入れる試みを2019年度から開始した。本稿では2023年度の「表現実践」における地域連携デザイン制作課題の取り組みについて報告する。

## I はじめに

宝塚大学東京メディア芸術学部では、初年次教育科目として「表現実践」「表現思考」「表現とICT」「コンピュータデザイン基礎」の4科目を設置し、創作における基礎力を携えた、社会で活躍することのできるクリエイターを育てることを目指している。表現実践では、「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」（文部科学省 2021）の実現のため、学生が主体的にさまざまな課題に取り組み、クリエイティブ業界で活躍するための「表現に対する姿勢」を学ぶ。本学では美術系大学である

特色を踏まえながら、初年次教育にデザイン制作系の課題を取り入れてきた。さらに、本学は新宿区健康部と事業協定を結んでいることから、初年次教育の課題に地域連携を取り入れる試みを2019年度から開始した。本稿では2023年度の「表現実践」における地域連携デザイン制作課題の取り組みについて報告する。

本報告は、日本デザイン学会第71回春季研究発表大会における口頭発表の概要をもとに再編したものである。

## Ⅱ 美術系（デザイン系）の初年次教育に関する先行研究

高校から大学へ教育を円滑に行うため初年次教育が多く大学で実施されている。初年次教育とは、「大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるべく、主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム。高等学校までに習得しておくべき基礎学力の補完を目的とする補習教育とは異なり、新入生に最初に提供されることが強く意識されたもの。」（文部科学省2017）と定義されている。文科省の調査によると初年次教育を取り入れている大学は、2011年512大学から2015年614大学まで増加している。

初年次教育の内容は各大学の教育方針によって異なる。芸術分野の大学においても様々であるが、創作するための表現方法や思考法を初年次教育に取り入れ、その効果について検討がなされている。例えば、東北工業大学ライフデザイン学科産業デザイン学科1年生を対象に「アイデア基礎および同演習Ⅰ」を開講し、アイデア発想法に関する講義を実施している（堀江 2020）。長岡造形大学でも初年次教育カリキュラムの一つとしてデザイン教育を盛り込んだグループワークを実施している（森本ら 2021）。また、2年生対象ではあるが、東京工科大学メディア学部でも必須科目メディア基礎演習「デザインの基礎」として、リーフレットのデザインを通した理論的な表現方法を獲得するための講義を実施している。

このように芸術やデザインを専攻する各大学においても初年次教育にデザイン教育の導入する動きが見られ、その教育効果に関する検討が現在続けられている。

## Ⅲ 大学の社会貢献

大学は研究の推進や高度な人材養成はもちろん、今日では時代や社会の期待に応えていく

姿勢が求められている。文部科学省（2018）は、高等教育改革の指針として位置付けられた実現すべき方向性の一つとして、「地域の高等教育の規模を考える上でも、地域における高等教育のグランドデザインが議論される場が常時あり、各地域における高等教育が、地域のニーズに応えるという観点からも充実し、それぞれの高等教育機関の強みや特色を活かした連携や統合が行われていくこと。」とまとめている。このように各大学においてはそれぞれの個性・特色に応じた方法で地域社会へ貢献の責務を果たしていくことが期待される。そこで宝塚大学東京メディア芸術学部（以下、本学）では、マンガ・イラストレーション・ゲーム・アニメーション・メディアデザインを軸とした芸術系大学である特色を活かした社会貢献活動に取り組んでいる。

## Ⅳ 初年次教育における地域連携の取り組みと課題設定

本学は地域連携として2016年度より新宿区健康部健康づくり課と連携協定を結び、健康に関する情報の効果的な普及啓発活動に継続的に協力している。2019年度からは新たな取り組みとして、本学1年生の必修科目「表現実践」において、年度の最終課題として、新宿区からの依頼に、それまでに培った傾聴力、リサーチ力、デザインする力、絵を描く力を総合的に活用して学生がグループで取り組む。これは「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」の実現の一環として行っており、専門知識や技能を習得するばかりでなく、資質・能力の獲得や生きる力の育成に繋がっている。

2023年度は前年度に引き続き、新宿区健康部より「健康づくりの普及啓発」のための啓発ポスターの依頼を受けA1サイズのポスターを作成に取り組んだ。各班テーマを割り与えられ、イラストと文章による啓発ポスターを制作した。新宿区健康部との打ち合わせの中

で、普及啓発活動をテーマにして「若者向け」のポスターを制作して欲しいとの意向があり、こちら側からは本学の特色に合わせてイラストやキャラクター、マンガを盛り込むことを提案し、仕様に追加した。

## V 実施概要

2023年度は全講義対面で行われた。新宿区健康部から提案されたテーマは下記の表1の通りである。

表1 ポスターテーマ

1	歩くことから始めよう！（1日8,000歩が目安です）
2	「節度ある適度な飲酒」（純アルコール量20g以下）を心がけよう
3	若い女性の「やせ」に注意！～適正体重を維持しよう～
4	歯科健診にいこう（10代・20代向け）
5	朝食は体のログインボーナス
6	特定健診を受けよう！



図1 ポスター制作過程の事例①  
（右：ラフ案、左：完成案）



図2 ポスター制作過程の事例②  
（右：ラフ案、左：完成案）

約130名の学生を5～6名ごとに24班に分け、1クラス12班、合計2クラス（A、Bクラス）で実施した。班は自由にメンバーを組めることとし、教員側に一任したい場合は申し出るようにした。結果、自由にメンバーを組んだ班はAクラスが5班、Bクラスが7班となり、それ以外は教員側で班を構成した。自由にメンバーを組んだ班の特徴としては交友関係をベースとされたものが多く、留学生のみのグループは1クラスに2班程度となった（留学生は1クラスにつき20名程度）。

なお、授業のサポート勤務を行う学生スタッフ1名につき2班配置した。

## VI 制作過程の例

この課題は個別のリサーチから始まり、グループワークによる企画・制作、校閲を経て完成作品を展示する流れとなっている。本報告では、新宿区健康づくり課からの指摘とそれを受けてどのように修正作業を実施したのか例示する。

ポスターのラフ案ができた段階で、一度新宿区健康づくり課による「デザイン」「出典・テキスト」「その他」に関する意見をもらう。例えば、図1の左側の「④歯科健診に行こう（10代・20代向け）」をテーマとしたグループのラフ案のテキストに関する意見として「「歯の健康」は「お口の健康」にしてください。「歯科」という言葉から誤解を受けがちですが、歯科健診や毎日の歯磨きは歯だけでなく口全体の健康につながります。」として上がった。このような指摘を受け図1の右側のような修正が実施された。公的な場におけるポスターでは、言葉の表現について細やかなチェックがあり、テーマと異なる表現がある場合には修正が指摘される。また言葉だけではなく、例えば同じく図2の右側の「④歯科健診に行こう」のデザインのラフ案に関して、「注射器よりも「歯科タービン」の方が歯科治療のイラストとしては

適切である」という指摘があった。この指摘を受けて、図2の右側のように歯科治療のイメージアイコンが変更された。その他においても「マイナスのイメージを表現する際には、「誰かを傷つける表現になっていないか」しっかり確認しながら進めてください。」などといった、ターゲットが意識されているか、正しい情報を正しく伝えているかといった指摘が新宿区健康部からの指摘事項として多く挙げられた。このようなデザインに関する学外の依頼者からの詳細なフィードバックを受け取ることにについて、学生のふりかえりシート内にて「依頼者からの要求を満たす作業は初めて。依頼者の意図を理解したスケッチを提出して、調整しながら作品を完成する体験は今後の活動にも役に立つだと思ふ。」といった、依頼されて作る経験の蓄積であったり、理解や調整といったコミュニケーションに関する気づきがあったりと、他者の視線を意識したものづくりへの関心が高まったようであった。そのほか、完成した健康づくり啓発ポスターの一部を図3に記す。

## Ⅶ 今後の検討課題

学生から提出されたふりかえりシートによると、作業の分量の偏りに関する不満が多く発生していた。Ⅶ 制作過程の例でも触れているようなデザインや文言に関する修正を行う際、グループ内の1名がPCで作業を行う。その際、他のメンバーがその後ろで意見を出すか、全く参加しないかということになっていた。このような状況の際、こちらから追加で課題を提供すべきなのか、そのような作業の偏らない工夫を指導すべきなのか、などデザイン教育におけるグループワークの作業の偏りをどのようにとらえ、効果的な初年次教育にしていくのか検討が必要である。



図3 完成した健康づくり啓発ポスターの一部

## 参考文献

- 堀江政広 (2020)：大学の初年次におけるアイデア発想教育，日本デザイン学会研究発表大会概要集，Y-17, 426-427.
- 森本康平 板垣順平 福本塁 小松佳代子 北雄介 徳久達彦 竹田進吾 市川次郎 金山正貴 (2021)：デザイン教育における初年次教育カリキュラムの試行 長岡造形大学における学科横断的な基礎演習科目「基礎ゼミ」の実施を通して，日本デザイン学会 第68回春季研究発表大会概要集，3B-04, 118-119.

文部科学省（2017）；平成27年度の大学における教育内容等の改革状況について（2024年4月アクセス）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigaku/04052801/1398426.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1398426.htm)

文部科学省（2018）；2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（2024年11月アクセス）

[https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt\\_koutou01-100006282\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200312-mxt_koutou01-100006282_1.pdf)

文部科学省（2021）；学習指導要領「生きる力」（2024年11月アクセス）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/index.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm)

